



会長のご挨拶



財団法人日本自転車競技連盟
会長 橋本 聖子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より、皆様には自転車競技の普及振興活動へのご支援、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

このたび、財団法人日本自転車競技連盟の会長に就任いたしました。現在、財団法人日本自転車競技連盟を含め自転車競技界は、競技人口の伸び悩みや財政的な問題など、これまで以上に厳しい状況に直面していると感じております。このような状況の下、自転車競技連盟に課せられた社会的使命、自転車競技の普及発展のために取り組むべき課題を考えますと、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。微力ではありますが、ご高恩の万々に報いるため、感恩の心で取り組む所存です。自転車競技の普及発展のために関係者の皆さまにお力添えをいただき、お知恵をかしていただきながら、明るい未来に向けて発展できるよう努力いたします。

私は、自転車競技種目により1988年にソウル大会、1992年にバルセロナ大会、1996年にアトランタ大会と、三度オリンピックに出場いたしました。競技生活を振り返ると、失敗もあり、壁にぶつかることもありました。困ったときには、いつも誰かが私を優しく覗き込んでくれました。コーチや先輩方、そして自転車競技界の多くの皆様方にお支えいただいてこそその選手生活だったと改めて思います。そうしたご恩は大きすぎて直接返せるものではありませんが、後進のアスリートたちを支えることで、少しずつ返していけたらと考えています。

スポーツは、人の心をひとつにしてくれます。また、世界に共通する言語と言っても過言ではありません。その発展は人類社会が直面するグローバルな課題の解決に貢献するはずで、スポーツが人生を豊かにし、未来ある子ども達の心と身体の成長を育んでくれることと信じています。

本年も皆さまにとりまして良き年でありますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶、そして会長就任のご挨拶といたします。

シクリスムエコー No.196 2012年12月・2013年1月合併号



第18回全日本シクロクロス選手権大会…………… 2
平成24年度日本体育協会公認コーチ養成講習会専門科目・4
日本代表選手団…………… 4



'12-'13 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#2… 5
第76回UCI室内自転車競技世界選手権大会…………… 6
日本代表選手団…………… 6



第43回全日本室内自転車競技選手権大会…………… 7

ツール・ド・いくちじま2012第1回レモンアイランドレース… 8



信州クロス 野辺山高原ラウンド…………… 10
国際大会の選手選考について…………… 11
日本代表選手団…………… 11
第18回日韓対抗学生自転車競技大会…………… 12
連盟の動き…………… 13
競技大会結果/今後の大会予定…………… 14
ツール・ド・おきなわ2012…………… 15
全日本室内選手権PHOTO…………… 16



日本が生んだ世界のスポーツ

KEIRIN



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringing-keirin.jp>

第18回全日本シクロクロス選手権大会

男子エリート竹之内が2連覇!



男子エリートのスタート

女子右から、豊岡、宮内、福本



富士山をバックに男子エリートの先頭集団



男子ジュニア、横山のフィニッシュ





女子、宮内のフィニッシュ

12月9日、静岡県朝霧高原「ふもとつばら」の特設コースで、第18回全日本シクロクロス選手権大会が開催された。前日の強風や小雪で当日の天候が心配されたが、予定通り朝9時の男子ジュニアから競技は始まった。

男子ジュニアは5名という寂しいレースとなったが、篠ノ井高校の横山航太が2位の山田に54秒差をつけて優勝した。

女子は12名の出走で11時にスタート、豊岡、福本、宮内、坂口が先頭集団を形成する。豊岡、福本、宮内が積極的に前を引く。その後、坂口、福本がちぎれ、豊岡と宮内の一騎打ちとなった。最終周、豊岡のトラブルで宮内が先行、宮内がナショナルチャンピオンとなった。

男子エリートは、88名エントリー中84名が13時にスタート。竹之内、丸山、小坂光、沢田らが先頭集団を形成、昨年のジュニアチャンピオン沢田が序盤積極的に引く。出遅れた小坂正則は猛烈な勢いでそれを追う。最後は竹之内がペースアップし小坂光を振り切り、見事全日本2連覇をはたした。



男子の沢田



男子の宮澤



男子の土井

【競技結果】

第 18 回全日本シクロクロス選手権大会
(2012/12/9 静岡・朝霧高原)

男子エリート

- 1 竹之内 悠 京都 Eurasia 1:00:36
- 2 小坂 光 長野 Blitzen + 0:03
- 3 小坂 正則 長野 Suwako R. + 0:24



女子エリート

- 1 宮内佐季子 静岡 CLUB viento 37:29
- 2 豊岡 英子 大阪 panasonic L.+ 0:17
- 3 福本 千佳 大阪 同志社大 + 0:29



男子ジュニア

- 1 横山 航太 長野 篠ノ井高 40:09
- 2 山田誉史輝 長野 Happy Ride + 0:54
- 3 中井 唯晶 滋賀 瀬田工高 + 4:07



**平成 24 年度日本体育協会公認
コーチ養成講習会専門科目 自転車競技**

11月21日から25日、静岡県・日本サイクリススポーツセンターにおいて、平成24年度日本体育協会公認コーチ養成講習会の専門科目が開催された。

出席者40名、講師13名で、5日間にかけて実技を含め40時間の講義を行った。



**2012-2013トラックワールドカップ第2戦
日本代表選手団**

大会名 2012-2013トラックワールドカップ第2戦
開催場所 イギリス・グラスゴー
大会期間 2012年11月16日～18日
派遣期間 2012年11月12日～20日
代表選手団

- 監督 松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)
- コーチ 坂本 勉 (ナショナルコーチ)
- 村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)
- メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)
- マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)
- ドクター 河野 衛 (JCF 支援ドクター)
- アドバイザー 沖 美穂 (JCF 強化アドバイザー)
- 選手 新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島)
- 河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山)
- 坂本 貴史 (JPCA・JPCU 青森)
- 稲毛 健太 (JPCA・JPCU 和歌山)
- 橋本 英也 (岐阜・鹿屋体育大学)
- 加瀬加奈子 (JPCA・JPCU 新潟)
- 前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)

今こそ資源の有効利用を

創業110年の歴史

原材料再生のエキスパート

24時間対応の柔軟な受入体制

東港金属株式会社

www.tokometal.co.jp

'12-'13 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス# 2



坂本がケイリンで銅メダル!



11月16日から18日、イギリス・グラスゴーで行われたUCIトラック・ワールドカップ・クラシクス第2戦に7名の選手を含む14名の日本代表選手団が参加し、男子ケイリンにおいて坂本貴史が銅メダルを獲得した。

坂本はケイリン1回戦を4着として臨んだ敗者復活戦でペーサー退避後に先手を取り、結局先行逃げ切りで1着として2回戦へ。

2回戦でも道中最後方から先手を取るも巻き返されて後方追走となるが、接触で2名が落車して4位でゴール。落車の原因となる走行をしたテイラー（オーストラリア）が失格、その前に違反走行をしたチェーチ（イタリア）が降格となり、坂本は2回戦を2位として決勝戦へ進出。

1名が出場せず5名で行なわれた決勝戦もここまで同様、最後方からレースを進める形。各選手がやや車間を開けて坂本の出方を窺うところ残り2周を迎えるところで上昇開始。しかし他にもこれに合わせて踏み出してスピードが上がるところ、外を回された坂本は後手を踏む展開。残り1周となってベティヒャー（ドイツ）と先行争いをするロンドン・オリンピック金メダリストのケニー（イギリス）がバック・ストレッチに入ってそのベティヒャーに接触して落車。後続のラファルグ（フランス）も乗り上げて落車するが坂本はこれを交わして結局3位でゴール。銅メダル獲得、カリ大会に続くメダル獲得となった。優勝はベティヒャー。

photo: 若生武則（表彰および走行写真）

坂本選手のコメント

「とにかく落車に巻き込まれなかったのは良かったです。運だけは世界一ですね。レースで他の選手が自分のことを警戒するとは思っていませんでした。そんな中で前を狙って行ったんですけど結果はこの通りで。でも同年代でオリンピックの金メダリストと走ることが出来て、やはり思うところはありますね。本業でも深谷や脇本といった選手が周りにいるので、良い刺激にして次のステップに進めるように頑張ります。」



【競技結果】

'12-'13UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#2
(2012/11/16-18 イギリス・グラスゴー)

男子スプリント

- 1 BOETTICHER Stefan GER
- 2 FOERSTEMANN Robert GER
- 3 DMITRIEV Denis RVL
- 8 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 11 新田 祐大 CCT JPCA・JPCU 福島
- 30 稲毛 健太 JPCA JPCU 和歌山

男子ケイリン

- 1 BOETTICHER Stefan GER
- 2 LEWIS Peter JAY/AUS
- 3 坂本 貴史 JPCA JPCU 青森
- 13 新田 祐大 CCT JPCA・JPCU 福島

男子チームスプリント

- | | |
|------------------------------|-----|
| 1 LISS Lucas GER | 30p |
| 2 O'SHEA Glenn AUS | 31p |
| 3 ELORRIAGA ZUBIAUR Unai ESP | 35p |
| 9 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大学 | 55p |

男子チームスプリント

- | | |
|---------------|--------|
| 1 ドイツ | 43.887 |
| 2 イギリス | 44.175 |
| 3 フランス | 44.803 |
| 9 日本 河端・坂本・稲毛 | 46.182 |

女子500mタイムトライアル

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1 PANARINA Olga BLR | 34.121 |
| 2 VOGEL Kristina GER | 34.318 |
| 3 CALVO BARBERO Tania ESP | 34.451 |
| 10 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 | 35.726 |

女子スプリント

- | |
|-----------------------|
| 1 VOGEL Kristina GER |
| 2 VARNISH Jessica GBR |
| 3 JAMES Rebecca GBR |
| 15 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学 |
| 17 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟 |

女子ケイリン

- | |
|--------------------------|
| 1 VOGEL Kristina GER |
| 2 GNIDENKO Ekaterina PHL |
| 3 LEE Wai Sze HKG |
| 12 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟 |
| 19 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学 |

女子チームスプリント

- | | |
|------------|--------|
| 1 イギリス | 33.428 |
| 2 スpain | 34.102 |
| 3 フランス | 34.197 |
| 8 日本 前田・加瀬 | 35.329 |



第76回UCI室内自転車競技世界選手権大会

サイクルサッカー、残念ながら来年もグループB



日本対ルーマニア、後半3分過ぎ日本が同点に追いつく

去る11月4日～6日の日程にて日本代表選手団は10名にて結団、ドイツ・アッシャッフエンブルグでの世界選手権へ参戦。サイクルサッカーは昨年度から2年連続で木下直也・松田鋼組(VfH東京)、セカンドチーム藤田洋介・時倉宗大組(蔵前)、サイクルフィギュアは男子シングル芝山耕輔(VfH東京)、女子シングル佐藤風沙(SFCアンジー)というエントリーとなった。

11月初旬とはいえ、ドイツは冷え込みが厳しく、また期間中は雨にも見舞われる天候のもと、アッシャッフエンブルグの会場には世界各地から多くのアスリートと観客が訪れ、熱戦が繰り広げられた。今年度の会場は比較的狭目のフロアにコートを中心に配置し、周囲に特設観客席を増設して計4500席を集約。観客席とコートが密接し、歓声が反響しやすい「盛り上がり」重視のレイアウトであった。フランクフルトから車で1時間程度のドイツ中心部というアクセスもあり、メインプログラムの時間帯は満席・立ち見客多数の状態となった。サイクルサッカーは今年もグループB(二部リーグ)優勝、グループA復帰を命題として戦ったが、全勝対決の最終戦でルーマニアと引き分け、得失点差で及ばずグループB2位に終わった。

過去2年間、ルーマニアとの決戦は1-2、2-4のスコアで敗れている。今回も少得点差かつロースコアの堅いゲームになると予測。懸念材料は昨年同様「得失点差」であり、パワーに長けるルーマニアは下位チームから大量点を稼いでおり、日本に10点の差をつけて

いた。すなわち「引き分けアウト」の状態、1点ビハインドとほぼ同条件でのキックオフとなった。

結果としてこの条件が雌雄を決してしまうことになった。開始1分、微妙なジャッジでPKを献上

し、絶対に欲しかった先制点を相手へ渡してしまう。日本は残り12分間で2点が必要となり、当然ルーマニアは守備的にゲームをすすめる。日本は冷静にゲームを組み立て、マイボール時にはシュートまで繋げるも、決定力を欠いてCK(コーナーキック)となる流れが続く。CKを3度獲得したが決めきれず、0-1で前半終了。

後半は2点が必要な日本が攻め、ルーマニアが応戦するという形成となる。残り3分以上残した時点で左CKを決めて同点。日本に流れが傾き、勝ち越しは時間の問題だと思えた。ただその後うまく時間を使われ、CKもねじ込むことが出来ず、タイムアップ。この試合で獲得したCKは実に6本であった。

3年連続で同じ順位となり、来年もグループBで参戦することが決定した。2009年のポルトガル大会以降、世界トップのグループAから4年間遠ざかることは、国内での競技の発展に大きなマイナスである。競技人口や体格にさほど日本と差がないフランスやベルギーは、グループAに残留することでモチベーションを保ち、徐々に実力をつけている。年を追うごとにグループA復帰が険しくなっていることを自覚して、選手・関係者共々今後対策に尽力していかねばならない。

サイクルフィギュアは男女1名ずつのエントリーとなった。芝山は今夏よりドイツに拠点を移してトレーニングを重ねており、佐藤も18歳ながらすでに四度目の世界選である。国内にも若いプレーヤーが増えてきており、2名

には日本のサイクルフィギュアを支えるエースの自覚をもって活動を進めてほしい。芝山76.20p(24位)佐藤59.37p(15位)。2名とも厳しいジャッジと独特の雰囲気のおかげで、メンタルでの安定度が増してきている。世界選に参加するにあたり、更に自覚を強く持って、次年度へむけて躍進してほしい。

最後に、今大会におきまして当連盟所属の畑仁UCI国際審判員が、日本人として初めて、サイクルサッカーグループA開幕戦のオーストリアVSベルギーの主審を務めました事をご報告いたします。(日本代表選手団 宮川 廣平)

【競技結果】

第76回UCI室内自転車競技世界選手権大会
(2012/11/2-4ドイツ・アッシャッフエンブルグ)

男子サイクルフィギュア

1	David Schnabel	ドイツ	208.46p
2	Florian Blab	ドイツ	198.98p
3	Yannick Martens	スイス	164.27p
24	芝山 耕輔	東京	52.90p

女子サイクルフィギュア

1	Corinna Hein	ドイツ	179.93p
2	Sandra Beck	ドイツ	177.75p
3	Adriana Mathis	オーストリア	165.19p
15	佐藤 風沙	京都	59.37p

サイクルサッカー

【Aグループ】

1	スイス	2	オーストリア	3	ドイツ
---	-----	---	--------	---	-----

【Bグループ】

1	ルーマニア	
2	日本	木下 直也・松田 鋼
3	オランダ	

2012年世界室内自転車競技選手権大会 日本代表選手団

大会名 2012年世界室内自転車競技選手権大会
開催場所 ドイツ・Aschaffenburg
大会期間 2012年11月2日～4日
派遣期間 2012年10月28日～11月6日
代表選手団

チーフ・ダ 宮川 廣平 (JFIC強化委員)
コーチ 濱田美穂子 (JFIC強化コーチ)
Murke Petra (ドイツ在住)
メカニック 村上 裕亮 (大阪・RSV大阪)
選手 サイクルサッカー
木下 直也 (東京)
松田 鋼 (東京)
時倉 宗大 (神奈川)
藤田 洋介 (東京)
サイクルフィギュア
芝山 耕輔 (東京)
佐藤 風沙 (京都)

第43回全日本室内自転車競技選手権大会

サイクルサッカーは木下・松田 (VfH東京1) が6連覇!



第43回全日本室内自転車競技選手権大会が12月1日(土)、12月2日(日)の2日間にわたり大阪市のボディーメーカーコロシウム(大阪府立体育館)で熱戦が繰り広げられた。

この大会は、全日本サイクルサッカー選手権として1970年11月に第1回大会が開催され、その後1985年からサイクルフィギアも行われ、今大会は2012年度のサイクルサッカー・サイクルフィギアの日本チャンピオンを決める国内最高峰の大会である。

1日目はサイクルサッカーのファーストステージ、サイクルフィギアのファーストトライアルが行われサイクルサッカーは2日目、準決勝、決勝へと得失点差等で進む仕組みである。サイクルフィギアは、2日目にセカンドトライアルが行われ、その得点で優勝が決まる。

サイクルサッカーの決勝戦は日本代表のVfH東京の木下・松田組と、ピンキーズ大阪の村上・宮本組との対戦で後半、終了1分30秒前にピンキーズ大阪が同点に持ち込み延長PKになる大接戦の末VfH東京の木下・松田組がなんとか振り切り大会6連覇を果たした。

準決勝あたりから非常に迫力がありレベルの高さを感じ見応えがあった。是非とも来年は世界トップのグループAへの返り咲きを果たして国内サイクルサッカーのレベルアップに繋げてほしいものである。

サイクルフィギアは男女とも競技者が演技を選び、その得点から減点されるという減点方式で行われる。

男子は滋賀CFCブルーレイクエンジェルの芦田史朗が116.50と日本記録で優勝し女子は滋賀CFCブルー

イクエンジェルの近藤菜月が76.78を出し、2位のSFCアンジー京都の佐藤風沙をわずかに上回り初優勝を果たした。

男女とも全員ベストの得点を出しており今後が非常に楽しみである。とともにどの自転車競技にも共通する底辺の拡大、指導者不足、メンタル部分の強化(堀井和美さん談)等が今後の課題である。

大会を通じて感じたのは、室内競技連盟の妙中会長をはじめ役員、関係者、選手が非常にアットホームな感じで大会運営が非常にスムーズであり、運営に対する熱意を感じた。是非とも2年後の大分でのワールドカップアジア大会を実現し、オリンピック正式種目に向けて頑張ってほしいものである。

(強化副委員長・広報委員長 塚本芳大)

【競技結果】

第43回全日本室内自転車競技選手権大会 (2012/12/1-2 大阪・ボディーメーカーコロシウム)

サイクルサッカー

- 1 木下 直也・松田 鋼 VfH東京1
- 2 村上 裕亮・宮本 武彦 ピンキーズ大阪
- 3 藤田 洋介・時倉 宗大 蔵前1

サイクルフィギア男子シングル

- 1 芦田 史朗 ブルーレイクエンジェル 116.50pt
- 2 縄田 末男 BF07 宇部 23.42pt

サイクルフィギア女子シングル

- 1 近藤 菜月 ブルーレイクエンジェル 76.78pt
- 2 佐藤 風沙 SFCアンジー京都 75.90pt
- 3 上嶋 美音 ブルーレイクエンジェル 68.98pt

Meitan SuperAthlete

エネルギー補給からエネルギー変換まで!

<http://www.meitanhonpo.jp>



梅丹本舗は、プロ選手の意見と健康補助食品開発者の知識とノウハウが融合した商品群で、エネルギー補給からエネルギー変換までトータルに自転車競技をサポートしています。(左より3商品)素早くかつ持続するエネルギー補給食「サイクルチャージ」シリーズ。厳選した糖質に加え、運動に必要な栄養素を可能な限り添加。40g・約100kcal。(右)胃と肝臓の動きを高め、糖質を限りなくエネルギーに変換するトレーニングサプリメント「トップコンディション」。ウコン・クルクミン・アラニン・梅肉エキス等の健康成分配合。

株式会社 梅丹本舗
スーパーアスリート事業部
大阪府摂津市学園町1-1-26

梅丹本舗は、日本自転車競技連盟のオフィシャルスポンサーです。自転車競技ナショナルチームを応援しています。

ツール・ド・いくちじま 2012 第1回レモンアイランドレース

愛三工業が圧勝!



紅葉のシトラスパーク瀬戸田を行くエリートのメイン集団
多々羅大橋の下を行くエリートメイン集団



愛三がスピードアップして逃げを追う



男子エリート、逃げる中島



クラス3ロードレースのスタート



エリートロードレース中島のフィニッシュ



クラス3ロードレース小橋のフィニッシュ



エリートクリテリウムの愛三軍団



クラス3クリテリウムの小橋(右)

特別ゲストの為末(左)と新城



「ツール・ド・せとうち」をめざしてシュプレヒコール

11月10日・11日、瀬戸内海にある広島県の生口島で、ツール・ド・いくちしま2012・第1回レモンアイランドレースが開催された。

今大会、学連から混成チームも含め14チーム、実業団から3チーム、主催者招待として愛三工業と広島選抜の合計19チームが参加、エリートとクラス3の2クラスで競われた。

初日は、平山郁夫美術館周辺特設周回コース(1.4km)でポイントレース形式のクリテリウムが行われ、まず最初にクラス3がスタート、ボンシャンス飯田の小橋が優勝した。

次にエリートクラスが行われ、愛三工業の福田が圧倒的な点差をつけて優勝、同じく木守が2位に入った。

翌11日は、サンセットビーチを発着点とする1周15kmのコースで、あいにくの雨の中ロードレースが行われた。

午前9時、クラス3がスタート。1周完了時には小橋、宮内(環太平洋大学)、細井(広島選抜)、逢坂(朝日大学)の4名が先行したが、最終結果は前日に続き小橋が優勝した。

引き続き、エリートが10周で競われた。幾つかのアタックの中、河賀(立命館)、伊藤(MASSA ANDEX)、志野(同志社)、川口(広島選抜)らの逃げがしばらく続く。レース後半、愛三工業がメイン集団の前を固め一気に先行を飲み込み、そこから中島が抜け出す。地元広島勢も健闘するが、最後は中島が単独でゴール。

【競技結果】

ツール・ド・いくちしま2012 第1回レモンアイランドレース (2012/11/10-11 広島・生口島)

男子EIT-クリテリウム

- 1 福田 真平 愛知 愛三工業レーシング 60p
- 2 木守 望 和歌山 愛三工業レーシング 24p
- 3 西沢 倭義 京都 京都大+明治大 17p



- 4 伊藤 雅和 愛知 愛三工業レーシング 13p
- 5 野中 竜馬 広島 広島県選抜 11p
- 6 小森 亮平 広島 広島県選抜 10p

男子EIT-ロードレース(150km)

- 1 中島 康晴 福井 愛三工業 4:30.34
- 2 安井 雅彦 東京 東京大 4:32.12
- 3 伊藤 雅和 愛知 愛三工業 4:33.07



- 4 吉岡 直哉 京都 京都産業大 4:33.38
- 5 鈴木 龍 東京 東工+明学 4:34.12
- 6 木守 望 和歌山 愛三工業 4:34.12

クラス3クリテリウム

- 1 小橋 勇利 愛媛 ボンシャンス飯田 27p
- 2 宮内 渉 愛媛 環太平洋大学 21p
- 3 金野 冬星 宮城 朝日大学 15p



- 4 伊藤 舜紀 北海道 ボンシャンス飯田 14p
- 5 南野 求 京都 京都産業大学 12p
- 6 渡邊 誉大 京都 京都産業大学 12p

クラス3ロードレース(30km)

- 1 小橋 勇利 愛媛 ボンシャンス飯田 51:41
- 2 宮内 渉 愛媛 環太平洋大学 51:43
- 3 細井 陽介 広島 広島県選抜 52:42



- 4 逢坂 尚也 岡山 朝日大学 52:50
- 5 渡邊 誉大 京都 京都産業大学 54:07
- 6 大倉 隆慈 奈良 大阪産業大学 54:08

信州クロス 野辺山高原ラウンド

男子:竹之内、女子:豊岡、ジュニア:横山が勝利!



男子エリートの竹之内

11月18日長野県南佐久・野辺山高原で、「UCIクラス2」の信州クロス野辺山高原ラウンドが開催された。

13時10分、男子ジュニアが2人という寂しいスタートを切り、横山が山田に2分以上の差を付けて優勝した。

女子は3人のアメリカ人選手を含む11人がジュニアの1分後スタートした。スタート直後はWINBERRYがリード、豊岡、BRUBKER、BURTON、宮内らが追う。そこから豊岡が単独で先行、そして宮内もWINBERRYをパス。結局豊岡が宮内に42秒差をつけ優勝した。

男子エリートは66人エントリーで64人のスタート、こちらにも2人のアメリカ人選手が出走した。レース中盤、小坂正則と丸山、竹之内が先頭集団を形成。その後、満を持して竹之内がアタックし、そのまま単独フィニッシュした。

【競技結果】

信州クロス野辺山高原ラウンド (UCIクラス2)
(2012/11/18 長野・南佐久)

男子エリート

- 1 竹之内 悠 京都 Eurasia 1:02:54
- 2 小坂 正則 長野 Suwako R. + 0:32
- 3 丸山 厚 長野 Massa-Andex + 1:09

女子

- 1 豊岡 英子 大阪 panasonic L. 38:42
- 2 宮内佐季子 静岡 CLUB viento+ 0:42
- 3 WINBERRY Laura USA + 0:44

男子ジュニア

- 1 横山 航太 長野 KAI Racing 40:59
- 2 山田誉史輝 長野 Happy Ride + 2:14



女子の豊岡



男子ジュニアの横山



男子エリートのスタート



男子エリートの表彰式

国際大会の選手選考について

選手強化本部会

第33回アジア選手権大会・第20回ジュニアアジア選手権大会 (トラック：2013/3/7-11 ロード：2013/3/13-17 インド・ニューデリー)

<エリート；トラック>

2012年強化指定・強化育成選手の中から、強化合宿、選考合宿等の状態を参考として、強化事業計画の方針に沿って選考する。

<エリート；ロード男子>

当該監督の推薦により提案され、ロード部会の承認を得る。

<エリート；ロード女子>

当該監督の推薦により提案され、ロード部会の承認を得る。

<U23；ロード>

当該監督の推薦により提案され、ロード部会の承認を得る。

<ジュニア；トラック>

2012年新強化指定選手の中から、2013年2月実施予定の選考合宿の成績を参考として強化事業計画の方針に沿って選考する。

<ジュニア；ロード>

2012年新強化指定選手の中から、2013年1月実施予定の強化合宿の成績を参考として強化事業計画の方針に沿って選考する。

2013年トラック世界選手権大会 (2013/2/20-24 ベラルーシ・ミンスク)

2012年強化指定・強化育成選手の中から、強化合宿、選考合宿等の状態を参考として、強化事業計画の方針に沿って選考する。

2013年ジュニア・トラック世界選手権大会 (2013/8/7-11 イギリス・グラスゴー)

2013年強化指定選手の中から、2013年7月実施予定の選考合宿の成績を参考として強化事業計画の方針に沿って選考する。

2013年ロード世界選手権大会 (2013/9/21-29 イタリア・フローレンス)

<エリート男子>

全日本選手権ロードレース終了時点でのUCIポイント獲得上位者(プロツアー登録選手は各大陸ツアーのポイントも独自に付与する)並びに全日本選手権ロード優勝者を候補選手として10名を選出する。
世界選手権国別参加枠決定後、参加選手を選考、決定する。

<エリート女子>

UCIポイント獲得上位者から選考する。

<参加枠2名以上の場合>

直近の全日本選手権優勝者を選考する。

<U23>

全日本選手権ロードレース終了時点でのUCIポイント獲得上位者並びに全日本選手権U23ロード優勝者を候補選手として8名を選出する。
世界選手権国別参加枠決定後、参加選手を選考、決定する。

<ジュニア>

2013年強化指定選手の中から、強化育成合宿並びに2013年国際大会並びに6月開催の全日本選手権の成績を参考に、強化事業計画の方針に沿って選考する。

ロード世界選手権以外のナショナルチーム派遣レース

全てのカテゴリー(ジュニアを除く)において、当該監督の推薦により提案されロード部会の承認を得る。

第18回日韓対抗学生自転車競技大会 日本代表選手団

大会名 第18回日韓対抗学生自転車競技大会
開催場所 奈良・奈良競輪場
大会期間 2012年11月3日～4日
派遣期間 2012年11月2日～4日
代表選手団

団長 井上正継(全国高体連自転車競技専門部)
副団長 井関康正(日本学生自転車競技連盟)
監督

(大学) 三宅秀一郎(日本学生自転車競技連盟)
(高校) 大野直志(八戸工業高校)
(女子) 足立卓也(榛生昇陽高校)

選手 橋本凌甫(東京・日本大学)
橋本英也(岐阜・鹿屋体育大学)
末木浩二(山梨・日本大学)
矢野智哉(岐阜・朝日大学)
倉林巧和(群馬・日本体育大学)
瓜生崇智(熊本・九州学院高校)
伊藤和輝(東京・昭和第一高校)
宮本隼輔(山口・防府商業高校)
片桐善也(新潟・吉田高校)
藤根俊貴(岩手・紫波総合高校)
小島蓉子(千葉・日本体育大学)
上野みなみ(青森・鹿屋体育大学)
塚越さくら(鹿児島・鹿屋体育大学)
三宅玲奈(岡山・岡山工業高校)
元砂七々美(奈良・榛生昇陽高校)

'12-'13トラックワールドカップ第3戦 日本代表選手団

大会名 2012-2013

トラックワールドカップ第3戦
開催場所 メキシコ・アグアスカリエンテス
大会期間 2013年1月17日～19日
派遣期間 2013年1月13日～21日
代表選手団

監督

松本 整(JCF ナショナルチーム総監督)

コーチ

坂本 勉(ナショナルコーチ)

村田 正洋(アシスタントナショナルコーチ)

メカニック

森 昭雄(JCF 強化スタッフ)

鬼原 積(JCF 強化スタッフ)

マッサージ

柳 浩史(JCF 強化スタッフ)

森 典隆(JCF 強化スタッフ)

ドクター

金井 貴夫(JCF チームドクター)

アドバイザー

沖 美穂(JCF 強化アドバイザー)

選手

中川誠一郎(JPCA・JPCU 熊本)

渡邊 一成(JPCA・JPCU 福島)※CCT

坂本 貴史(JPCA・JPCU 青森)※CCT

河端 朋之(JPCA・JPCU 岡山)※CCT

和田真久留(JPCA・JPCU 神奈川)

橋本 英也(岐阜・鹿屋体育大学)

加瀬加奈子(JPCA・JPCU 新潟)

前田佳代乃(鹿児島・鹿屋体育大学)

石井 寛子(東京・日本競輪学校)※CCT

※CCTはシクロチャンネル東京チーム

第18回日韓対抗学生自転車競技大会

最後のポイントレースの大量加点により日本チームの逆転総合優勝



男子ポイントレースの表彰

第18回日韓対抗学生自転車競技大会が、11月3日・4日に奈良県営競輪場にて開催された。

過去の記録から、韓国の選手は総じて短距離系は強いが、中長距離はそれほど強くないことが多い。今回日本男子大学生は短距離をも制し、中長距離で上位独占を期待したい。男子高校生は力が拮抗、女子は短距離の不利を中長距離で取り返したい。総合争いはポイントレースで対抗点をどれだけ稼ぐかにかかってくる予測。

<スプリント>

男子大学生: 予選で洪と末木の2名が10秒台とレベルが高い争い。準決勝は予選1位の洪と対戦に強い橋本凌、予選2位の末木は韓との組み合わせ。しかし両韓国選手は最後の末脚が強く、橋本・末木とも決勝に進めず3・4位に終わった。

男子高校生: 予選で宮本11秒137と好記録だが、趙も11秒208と拮抗。この両者での決勝戦は、宮本が2本先取し優勝した。

女子: 予選で韓国の2選手とも12秒7前後なのに対し、三宅が13秒16、小島が13秒40のタイム。

タイムでは不利であったが、対戦ではうまく相手をコーナーの外を走らせて三宅が優勝し小島が3位。3位決定戦では、任がいかに女子高校生という顔からは想像がつかない闘志で、小島に自転車をぶつけてきた。

ディスクホイールから太鼓をたたいたような音が発し心配したが、落車には至らなかった。

<1km タイムトライアル>

男子高校生: 瓜生・宮本とも1分9秒018・9秒031でまずまずの出来だったが、趙が1分7秒607と強かった。

男子大学生: 末木が1分7秒193とこの時期としては好記録で喜んだのも束の間、韓が1分5秒046と格違いの記録で優勝。

<500m タイムトライアル>

塚越が自己記録に近い37秒115で優勝。2位と3位は韓国の金38秒070、任38秒461。韓国の女子選手は、太もものみが発達していて、ダッシュ力はあるが持続力で劣る印象。しかし全員高校生であることを考えれば、大学生の年齢まで続けて行けば持続力もついて強くなるのかも知れない。

<個人追抜競走>

男子大学生は記録的には低調だったが、予定通り橋本英・矢野で1位2位を独占。

男子高校生は伊藤・片桐とも悪くなかったが、韓国の申が3分33秒と強かった。

女子第1人者の上野は、2kmと距離が短いにも拘らず、いつもの3kmの感覚でセーブしてしまい、3位と力を出しきる前に終わる。塚越が頑張り2位になったが、1位を韓国呉に奪われ予想外の展開。

<ケイリン>

スプリント・1kmの結果から韓国有利の予想。末木・橋本凌で前を固めて先行して主導権を取りたい。作戦通り前を日本3人で固めるまでは良かったが、ペーサーが抜けるとすぐに韓国3人は外をあがり、両チーム主導権を取ろうと加速しながら並走のまま1周半。最終コーナーで韓国に前に出られて完全に負け。かろうじて3位に末木が入る。2周いっぱい走って上り11秒5と強かった。

<男子大学団体追抜>

前日、合わせ練習をやった通り走り切った。4分32秒で韓国チームを追抜くという良い出来だった。

<チームスプリント>

男子高校生、女子ともスタートで2走が付ききれず。結局それがタイム差となり負けてしまった。力はほぼ互角だったと思われるので、合わせきれなかったことが悔やまれる。

<ポイントレース>

ポイントレースは全員参加の女子10名、男子20名で行われる。他の種目が3位までなのに対し5位まで対抗得点が得られるので、より多くの日本選手で上位を占められれば、総合得点で有利になる。女子は中盤以降、日本5人に韓国1人という展開になる。しかし何故かこの一人を2位にしまった。圧勝ではあるが物足りない。一方の男子は、橋本英と矢野が積極的に先行し、韓国選手が追おうとして疲れたところを、倉林を始めとする他の日本選手がターミネートして行く。最後に走っているのは日本選手4人だけという理想的な戦いで圧勝。

4日の競技終了後、韓国選手団には帰国前に東大寺を見学してもらった。選手同士、言葉はほとんど通じないものの、競技の合間はもちろん3日の夕方には懇親会があり、交流が進んだ2日間は、今後も長く続けて行きたいと感じさせる大会であった。

<競技力の課題>

韓国選手はみなかなり重いギアで走っていた。賛否は個別要素も絡むので別議論として、男子大学生が短距離系で勝てなかったことは事実である。女

子もハロンではかなり差をつけられた。海外で戦うために、まず男女とも短距離系種目の強化が必要だ。そして女子は今回のポイントレースで5対1なら最後は5対0にするべきなのに出来(しようとし)なかった。ゲームスキルとチームで動く経験の積み上げが、今後の課題だろう。

(男子大学監督 三宅 秀一郎)

【競技結果】

第18回日韓対抗学生自転車競技大会 (2012/11/3-4 奈良・奈良競輪場 333.3m)

大学生男子スプリント

- 1 HONG EU CHUL KOR
- 2 HAN JAE HO KOR
- 3 橋本 凌甫 JPN 日本大学

大学生男子1kmタイムトライアル

- 1 HAN JAE HO KOR 1:05.046
- 2 末木 浩二 JPN 日本大学 1:07.193
- 3 橋本 英也 JPN 鹿屋体大 1:09.141

大学生男子4km個人追抜競走

- 1 橋本 英也 JPN 鹿屋体大 4:47.447
- 2 矢野 智哉 JPN 朝日大学 4:56.805
- 3 SIM SANG HOON KOR 4:58.978

大学生4km団体追抜競走

- 1 日本 4:32.814
- 2 大韓民国 4:53.650

高校生男子スプリント

- 1 宮本 隼輔 JPN 防府商業高校
- 2 JO JU HYEON KOR
- 3 KIM YEONG SOO KOR

高校生男子1kmタイムトライアル

- 1 JO JU HYEON KOR 1:07.607
- 2 瓜生 崇智 JPN 九州学院 1:09.018
- 3 宮本 隼輔 JPN 防府商高 1:09.031

高校生男子3km個人追抜競走

- 1 SHIN DONG IN KOR 3:33.502
- 2 伊藤 和輝 JPN 昭和第一 3:41.183
- 3 片桐 善也 JPN 吉田高校 3:42.074

高校生男子チームスプリント

- 1 大韓民国 1:05.896
- 2 日本 1:06.893

男子ケリ

- 1 HONG EU CHUL KOR
- 2 HAN JAE HO KOR
- 3 末木 浩二 JPN 日本大

男子ポイントレース(30km)

- 1 橋本 英也 JPN 鹿屋体育大 43p
- 2 矢野 智哉 JPN 朝日大 37p

- 3 片桐 善也 JPN 吉田高校 6p

女子500mタイムトライアル

- 1 塚越さくら JPN 鹿屋体育大 37.115
- 2 KIM SOO JIN KOR 38.070
- 3 IM DA BIN KOR 38.461

女子スプリント

- 1 三宅 玲奈 JPN 岡山工高
- 2 LEE HAN SOL KOR
- 3 小島 蓉子 JPN 日本体育大学

女子2km個人追抜競走

- 1 OH HYEON JI KOR 2:34.681
- 2 塚越さくら JPN 鹿屋体大 2:35.957
- 3 上野みなみ JPN 鹿屋体大 2:36.716

女子個人ポイントレース(12km)

- 1 上野みなみ JPN 鹿屋体育大 17p
- 2 OH HYEON JI KOR 13p
- 3 小島 蓉子 JPN 日本体育大学 10p

女子チームスプリント

- 1 大韓民国 50.923
- 2 日本 51.271

総合成績

- 1 日本 82p
- 2 大韓民国 70p

連盟の動き (11月中旬～12月中旬)

- | | | |
|--------|--------------------------------|-----------------------|
| 11月12日 | 12-13年トラックワールドカップ第2戦日本代表選手団出発 | 於：イギリス・グラスゴー 帰国→11/20 |
| 17日 | 第1回(財)JKA公益事業振興補助事業に係わる連絡会議 | 於：東京・日本自転車会館2号館8階 |
| 21日 | 平成24年度(公財)日本体育協会公認コーチ養成講習会専門科目 | 於：静岡・日本CSC(～25日) |
| 22日 | ジュニアロード強化合宿 | 於：沖縄(～26日) |
| 12月1日 | 第2回(財)JKA公益事業振興補助事業に係わる連絡会議 | 於：東京・日本自転車会館2号館8階 |
| 9日 | ロード強化合宿 | 於：千葉・鴨川(～14日) |
| 12日 | 第6回選手強化本部会・第3回常務理事会 | 於：東京・日本自転車会館3号館4階 |
| 20日 | 第7回広報部会 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| 21日 | 第3回理事会・第4回理事会 | 於：東京・日本自転車会館2号館8階 |
| | ◇第2回評議員会 | 於：東京・日本自転車会館2号館8階 |
| 22日 | ジュニアトラック強化合宿 | 於：静岡・伊豆ペロドローム(～26日) |



競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第43回JBCF全日本トラックチャンピオンシップ (2012/11/11 静岡・伊豆パドローム 250m)

男子スプリント

- 1 田村 武士 JPCA CLUBSPIRITS
- 2 伊藤 成紀 大阪 エンスタ・アヴェル
- 3 小谷 実 JPCA 岩井商会レーシング

男子1kmタイムトライアル

- 1 奥平 充男 京都 岩井商会 1:06.915
- 2 神田 龍 三重 Phosphorus 1:08.339
- 3 田村 武士 JPCA ClubSpirits 1:08.388

男子4km個人追抜競走

- 1 矢野 賢児 高知 マリゴールト 4:58.440
- 2 末永 周平 宮城 明治大学 4:59.531
- 3 林 航平 神奈川 Hammer!!B 4:59.874

4km団体追抜競走

- 1 Logisty Jack 山崎・斎藤・大村 5:05.363

チームスプリント

- 1 岩井商会 奥平・伊藤信・小谷 49.379
- 2 アヴェル 伊藤成・梅實・和田 52.706
- 3 湘南愛輪会 亀山・中川・田沼 54.378

男子ポイントレース(30km)

- 1 太田 貴明 京都 TeamUKYO 51p
- 2 山田 哲治 高知 マリゴールト TT 46p
- 3 末永 周平 宮城 明治大学 38p

男子ケリ

- 1 市川 英昭 神奈川 湘南愛輪会
- 2 加藤 剛 宮城 明治大学
- 3 小林 清仁 東京 航空電子

女子500mタイムトライアル

- 1 沼部早紀子 静岡 マットローチェ 38.800
- 2 和地 恵美 神奈川 たかだフレンド 40.331
- 3 濱田 真子 東京 湘南愛輪会 42.122

女子3km個人追抜競走

- 1 濱田 真子 東京 湘南愛輪会 4:18.488
- 2 和地 恵美 神奈川 たかだ F. 4:20.396

第59回全日本プロ選手権自転車競技大会 BMXレース (2012/11/11 静岡・日本CSC)

- 1 古性 優作 JPCA JPCU 大阪
- 2 西岡 拓朗 JPCA JPCU 広島
- 3 黒田 淳 JPCA JPCU 岡山

2012 伊豆 BMX 国際大会 (UCI クラス 5) (2012/11/18 静岡・日本CSC)

男子リト&ジュニア

- 1 三瓶 将廣 神奈川 REDLINE Bicycles
- 2 吉村樹希敢 大阪 CREDIT racing
- 3 阪本 章史 大阪 DIATECH Products

関西シロカス野洲ロード (UCI クラス 2) (2012/11/25 滋賀・野洲)

男子リト

- 1 竹之内 悠 京都 Eurasia 56.14
- 2 丸山 厚 長野 Massa-Index +1:41
- 3 沢田 時 滋賀 BS ANCHO +2:34

女子リト

- 1 豊岡 英子 大阪 panasonic L. 42.18
- 2 宮内佐季子 静岡 CLUB viento +0:41
- 3 Laura Winberry USA +0:50

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
1月17日～19日	2012-2013UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#3	TR	メキシコ/アグアスカリエンテス
2月2日～3日	2013年UCIシクロクロス世界選手権大会	CX	アメリカ/ルイビル
2月17日	第7回明治神宮外苑大学クリテリウム	RR	東京/明治神宮外苑
2月20日～24日	2013年UCIトラック世界選手権大会	TR	ベラルーシ/ミンスク
3月7日～17日	アジア自転車競技選手権大会	TR/RR	インド/デリー
3月21日～24日	平成24年度全国高等学校選抜自転車競技大会	TR/RR	福岡/北九州市・熊本/山鹿市
3月24日	アジアBMX選手権大会	BMX	シンガポール
4月7日	第38回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡/日本CSC

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業

ツール・ド・おきなわ2012



国頭村の海岸線を行く男子エリートのメイン集団

【競技結果】

ツール・ド・おきなわ 2012
(2012/11/25 沖縄県北部地域)

チャンピオンロードレース (210km)

- 1 PALMER Thomas AUS/ドラパック 5:32.16
- 2 畑中 勇介 JPN シムレーシング 5:32.16
- 3 中島 康晴 JPN 愛三工業 5:32.16
- 4 YEUNG Ying Hon Ronald HKG 5:32.16
- 5 WIESIAK Mariusz POL/マトリックス 5:32.16
- 6 黒枝 士揮 JPN 鹿屋体育大 5:32.16

女子国際レース (100km)

- 1 與那嶺恵理 茨城 フォルツァ! 3:06.32
- 2 WONG Wan Yiu Jamie HKG 3:06.41
- 3 萩原麻由子 大阪 あさひ R. 3:06.41
- 4 上野みなみ 鹿児島 鹿屋体育大 3:06.41
- 5 金子 広美 三重 イーメアテント 3:06.41
- 6 Huang Ting Ying TPE 3:08.39

ジュニア国際レース (140km)

- 1 小橋 勇利 愛媛 ホンジャシ飯田 4:06.08
- 2 LEUNG Chun Wing HKG 4:06.08
- 3 Liu En Chieh TPE 4:10.25
- 4 河津 賢人 熊本 Espoir-Asia 4:10.25
- 5 中野尻 祥 和歌山 和歌山北高 4:10.25
- 6 新城 雄大 沖縄 八重山農林 4:10.25



羽地ダムへ向う登りを行く男子エリートの先頭集団



男子エリートの勝者 PALMER



女子の勝者 與那嶺



男子ジュニアの勝者 小橋



サイクルサッカー決勝のVfH 東京1とピンキース大阪

第43回全日本室内自転車競技選手権大会 photo



サイクルフィギュア女子シングルの近藤



サイクルフィギュア男子シングルの芦田

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.196 2012年12月・2013年1月合併号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/塚本 芳大

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>